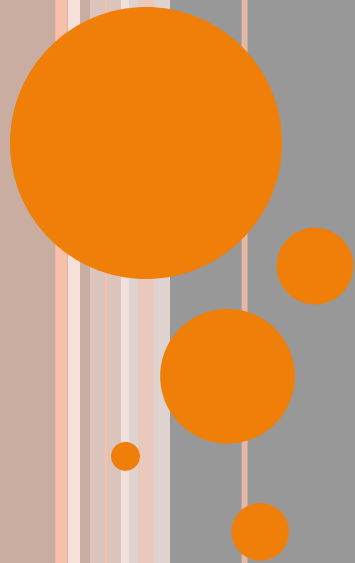


平成28年度アーチル連絡協議会

乳幼児相談から見える現状と課題

平成28年10月20日

1. 乳幼児支援係の相談支援 と就学前療育



乳幼児期に大切にしている 支援の視点

1. 支援を求めている児と保護者との**早期出会い**
2. 「**子育て**」の支援
3. 保護者の**エンパワメント**
～保護者が自ら考え、行動できるために～
4. **ネットワーク**の中での支援
～地域の社会資源との連携の中で～



保健福祉センターにおける幼児健診後のフォロー

保健福祉センター

幼児健診

1歳6か月児健診
受診率: 97.6%

2歳6か月児
歯科検診

3歳児健診
(3歳7か月時に実施)
受診率: 93.7%

会話の異常
他児との関わり
ごっこ遊び

愛着・模倣
言語発達
指差し
他児への関心

保健師
心理

問題なし

要観察

要精検

連携

○紹介状の活用
○各種連絡会
○巡回相談

- 電話
- 再来(面接)
- 事後指導教室
- 育児相談
- 地区支援

紹介

アーチル

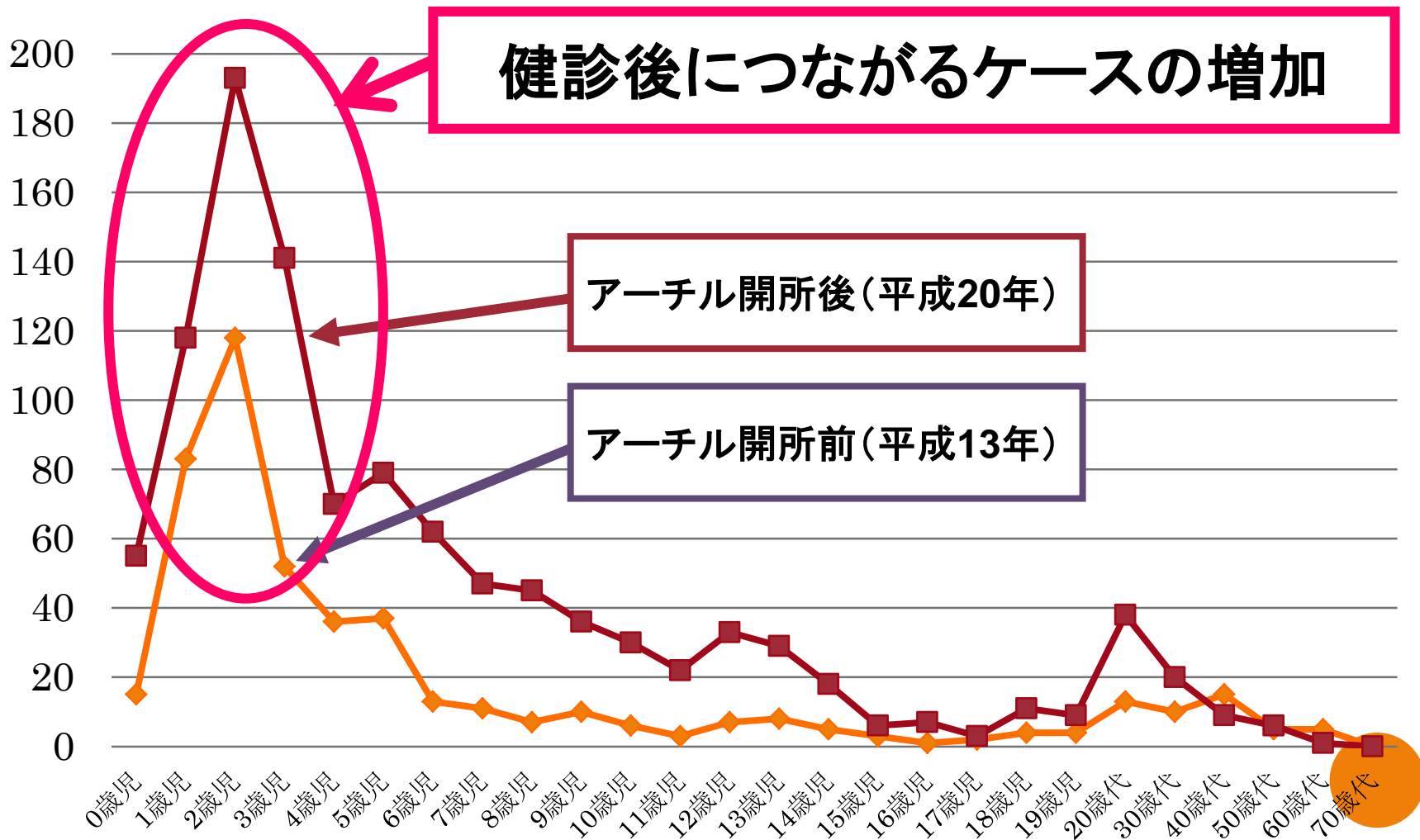
相談員(保健師等)
心理

問題なし

要観察

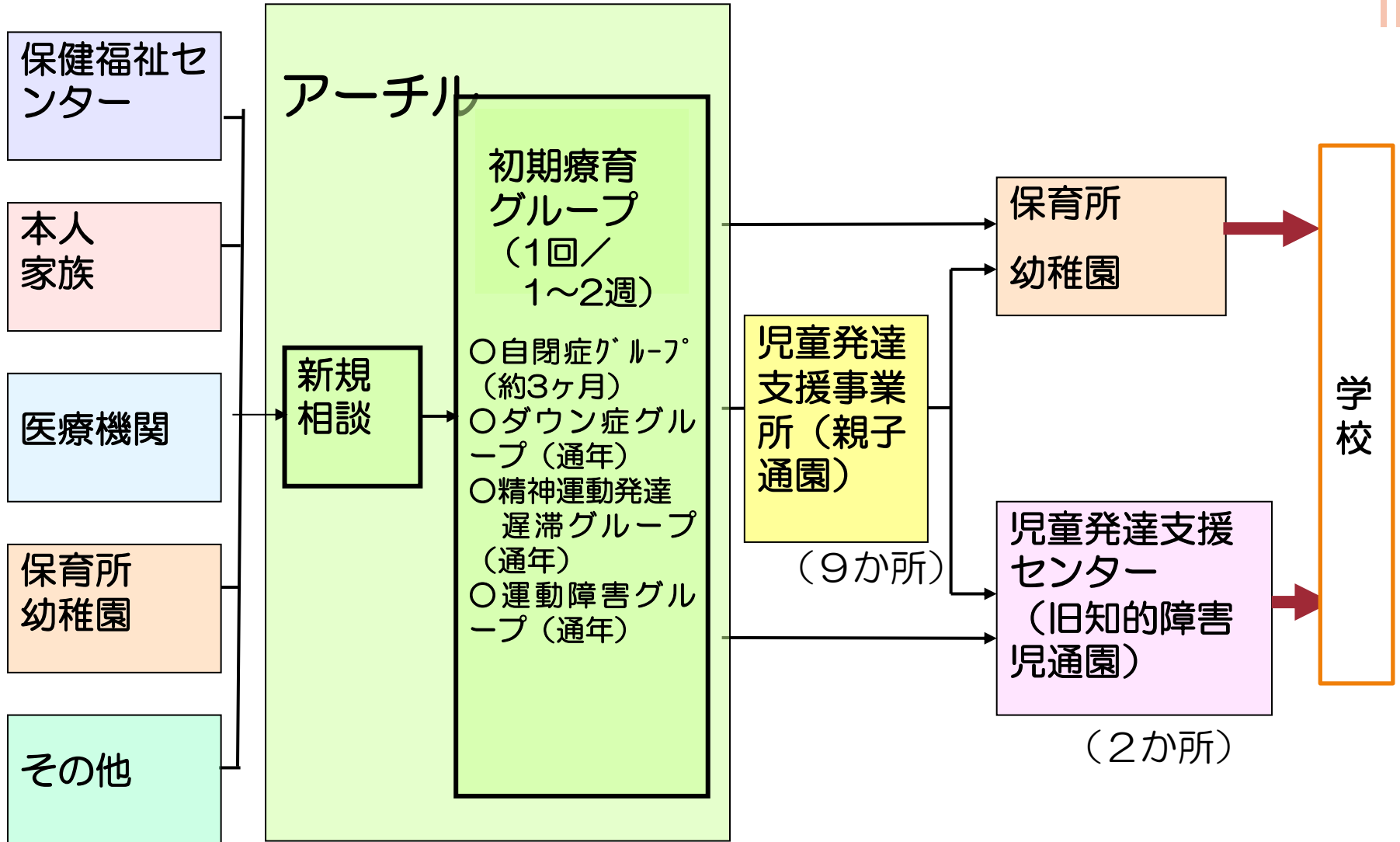
その他
専門機関紹介

新規相談時年齢（アーチル開所前後での比較）



仙台市の就学前療育体系

(紹介元)



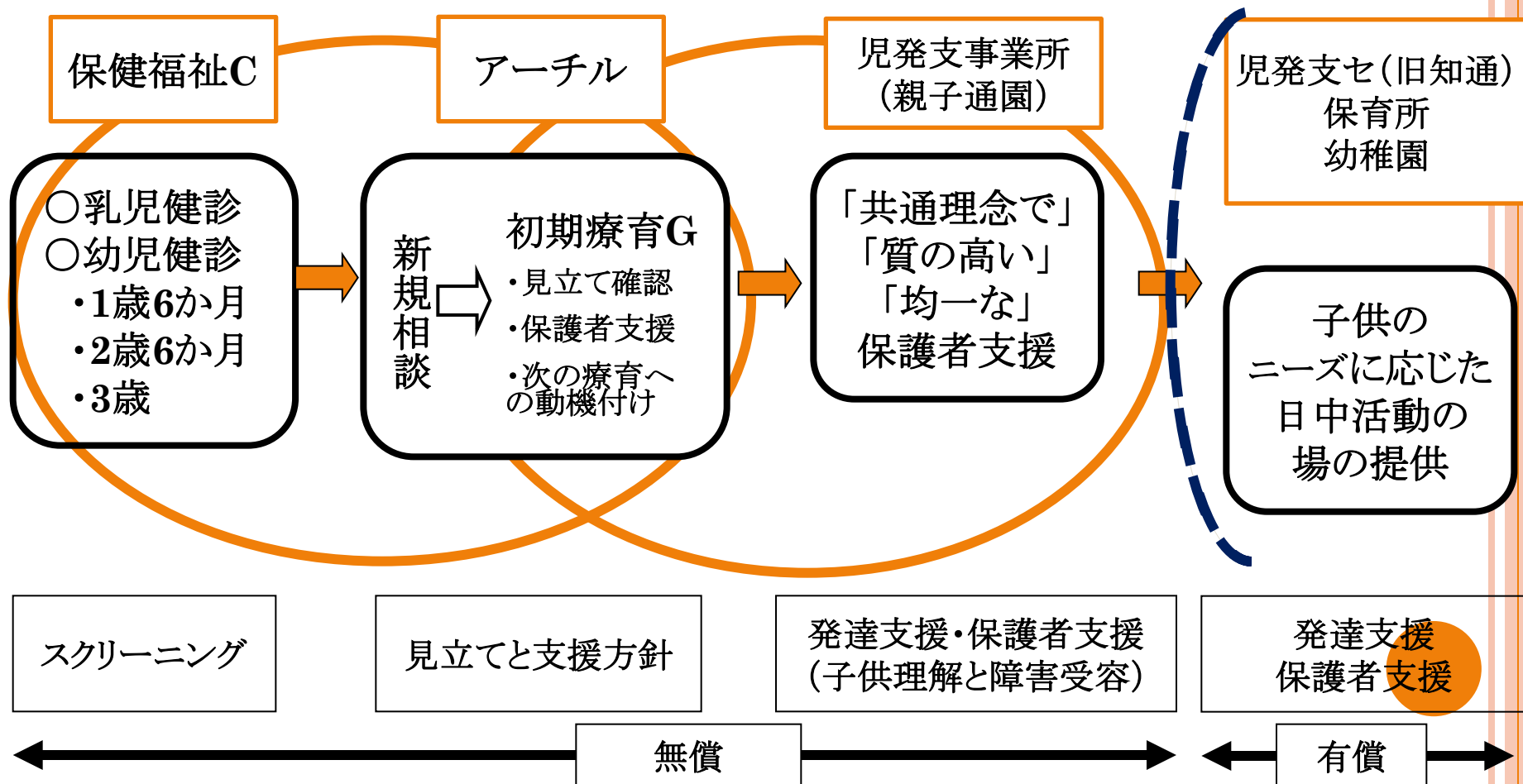
就学前療育システムの基本的な考え方

早期出会い

健診システムを活用した
早期発見システム

早期療育

就学前療育システム

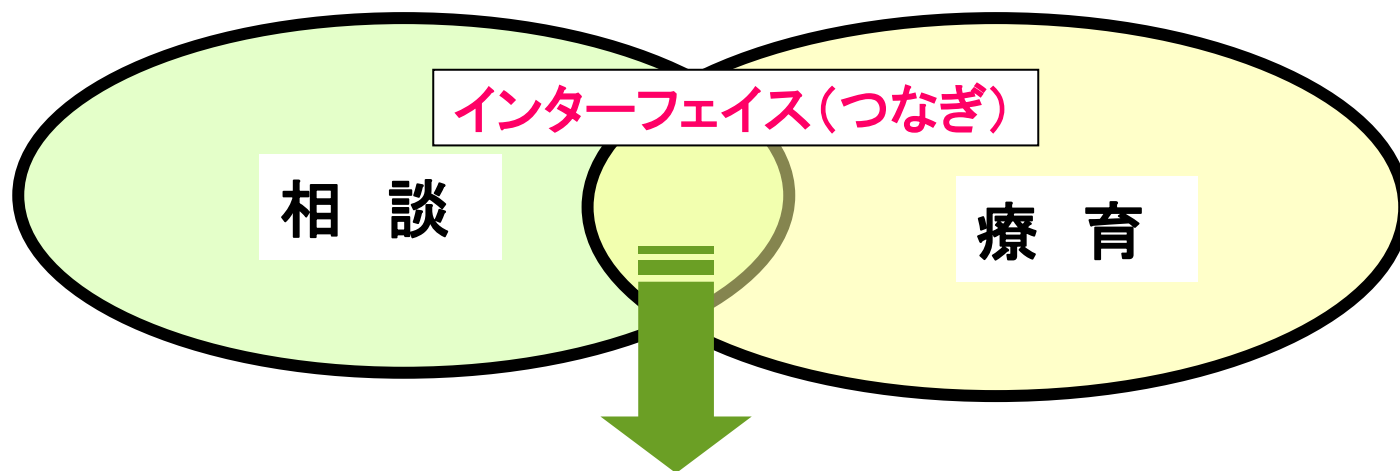


就学前療育体系でのアーチルの役割

- アーチルが仙台市の就学前療育体系全体を見渡しなが
ら、処遇調整等を行う
 - 親子通園施設及び旧知的障害児通園施設の支給決定はアーチルが行う
 - 親子通園、旧知的障害児通園とは移行時等必要に応じて訪問を行いながら情報共有
 - 障害児保育審議会への参加等保育所担当課（運営支援課）とも連携しながら子どもの育つ環境づくりに向けて提案
 - 学習会への参加等幼稚園とも連携して視点を共有
- 進路相談等節目でアーチルの相談を実施



初期療育グループ＝新規相談の「補完」



初期療育グループ

- 頻度:週1回
- 期間:概ね3ヶ月
- 構成:1グループあたり約8組の親子と3名のスタッフ
- 発達の特徴に応じたグループ分け
- 子どもへの支援と保護者への支援が両輪

初期療育グループでの保護者支援

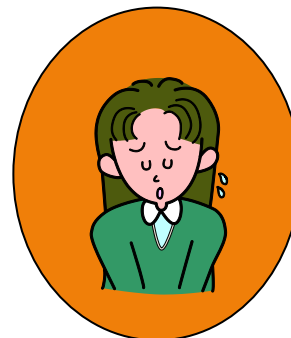
初回相談後の保護者

どう育てていったらいいの？
(育児の仕方)

こどもの発達の遅れは
個人差？
それとも障害？
育て方が悪かったの？
(こどもの捉え)

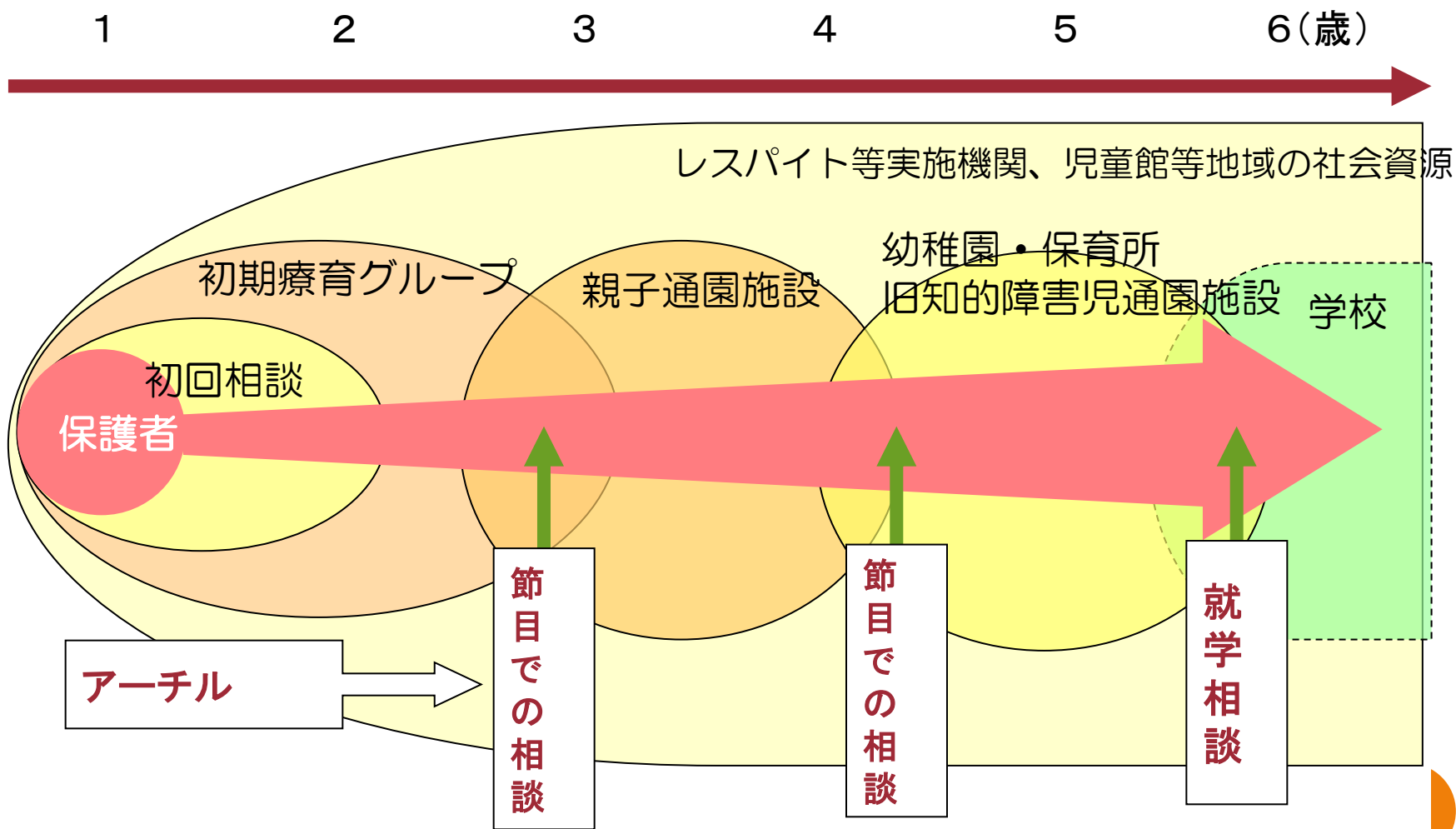
不安・ショック
自責・怒り
戸惑い
(感情)

保護者支援には
上記の問いに
対応できる
「仕掛け」が必要



- 同じ悩みを抱える保護者同士の出会いの場(ピアカウンセリング)
- 先輩保護者との出会いの場(メンタリング)
- 子育ての仕方を一緒に考える場
- 必要な知識や情報をタイミングよく提供する機会

「節目」で相談を行うことの必要性



一貫した支援に向けて・・・

アーチルの就学時のかかわり

○ 就学相談を実施

- これまでの乳幼児相談の連続の中で、本人の育ちを確認しながら、本人がよりよく育つための環境の考え方について話し合う

○ 市教委（特別支援教育課）との連携

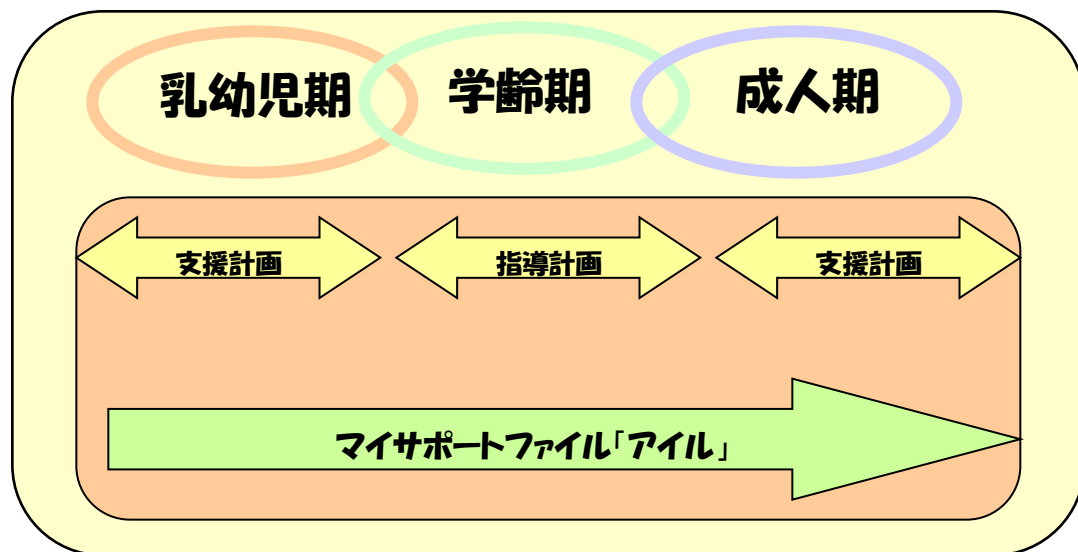
- 旧知的障害児通園施設の就学相談と一緒に訪問
- アーチルでの就学相談の中で保護者と共有した情報（児の状態、就学に向けた課題等）を相談資料にまとめて保護者に手渡し、希望する保護者は市教委が主催する新就学児対象の教育相談会等に活用



マイサポートファイル「アイル」

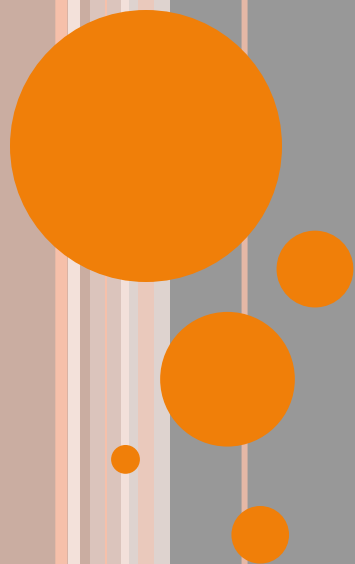
平成16年度に保護者による実行委員会を立ち上げ、協働で作成。

このファイルは、本人と保護者が持ち、保護者とアーチルが協働して作成する。保護者がわが子の問題に気づいた時から、医療機関や相談機関での相談記録や施設や学校での支援計画等を綴っておき、本人が生活をしていく上で、関係者に理解してもらうために役立てていく

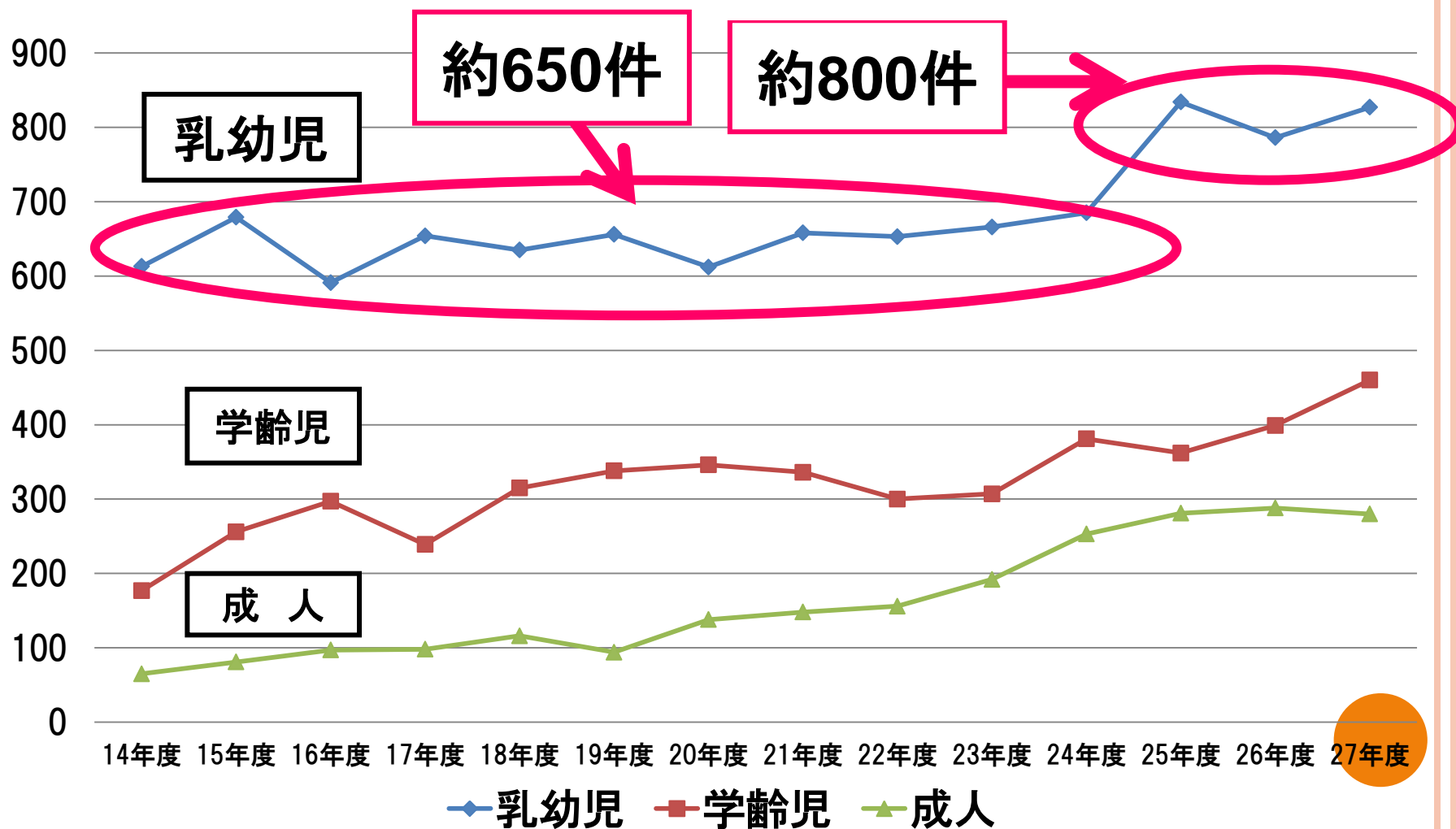


平成17年3月より初期療育グループに在籍していた保護者とファイルを作成開始
平成26年度より教育委員会と連携してサポートファイル活用促進に向けて取り組む

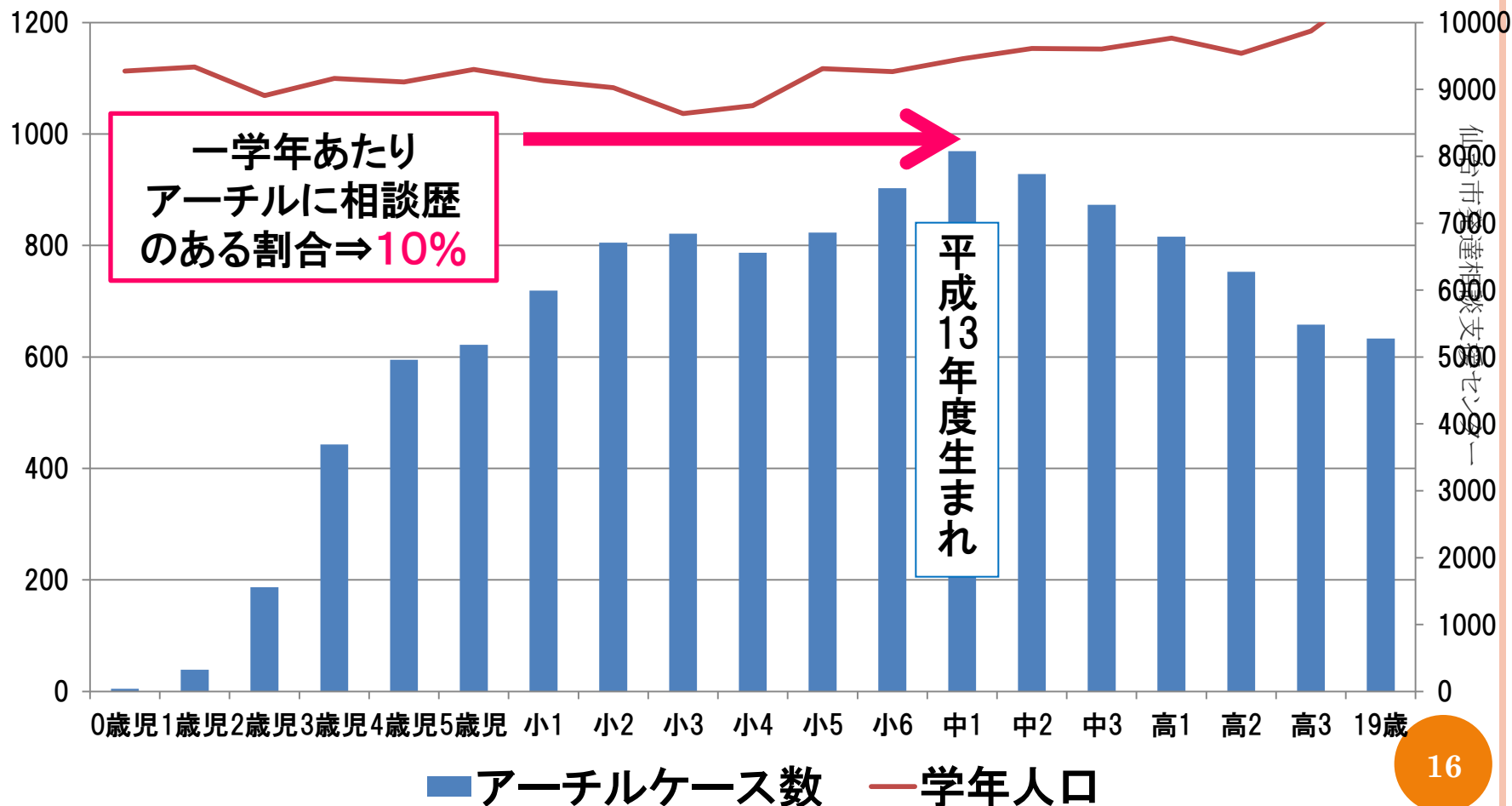
2. 相談状況の変化



新規相談 開所からの相談件数推移 (ライフステージ別)

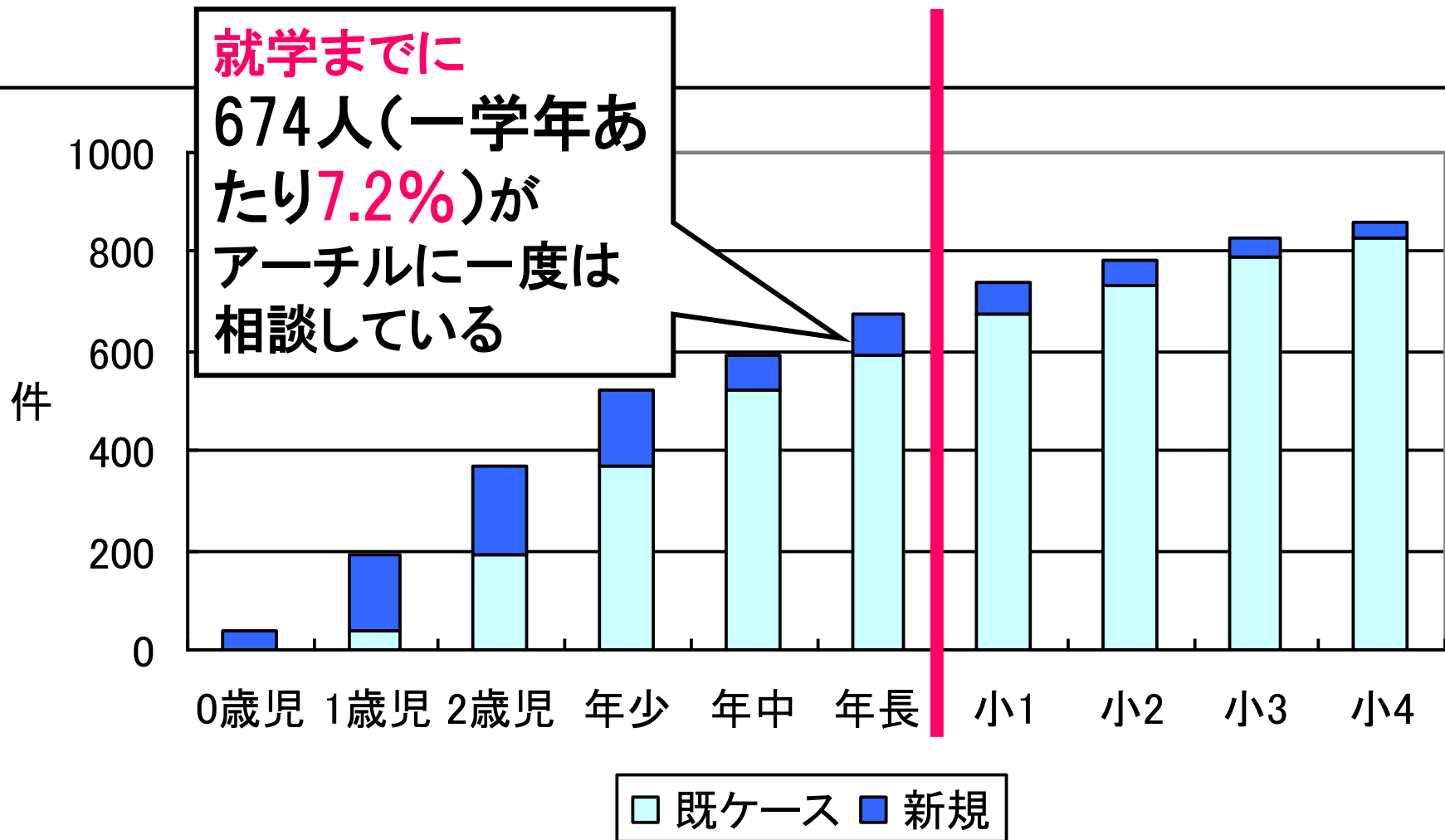


学年毎のアーチルケース数(H27.3.31時点)



平成13年度生まれの アーチルケース累積状況

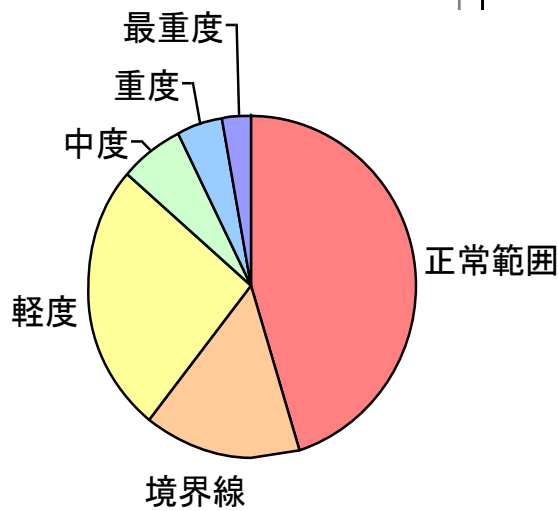
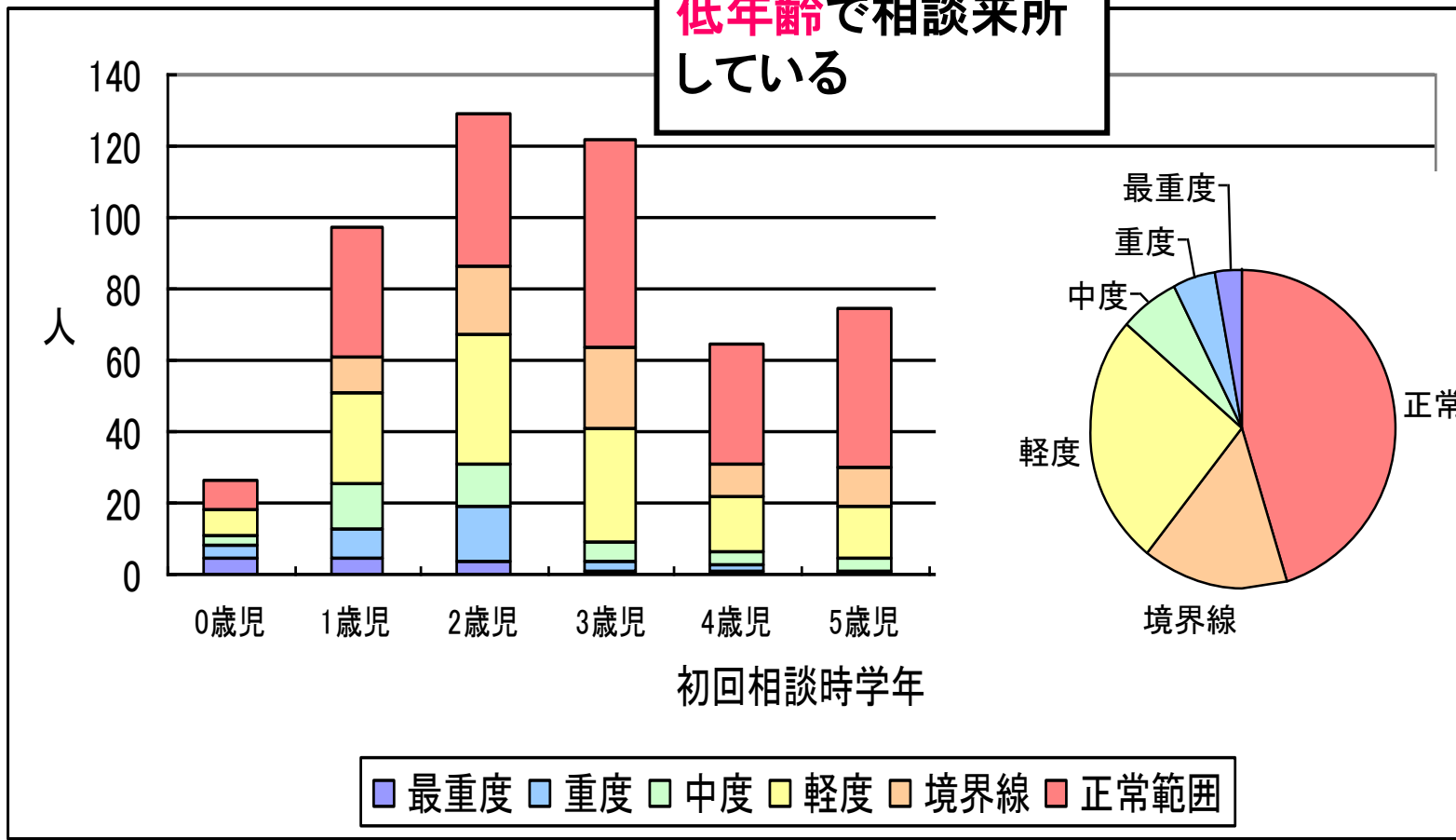
就学までに
674人(一学年あ
たり7.2%)が
アーチルに一度は
相談している



平成13年度生まれ

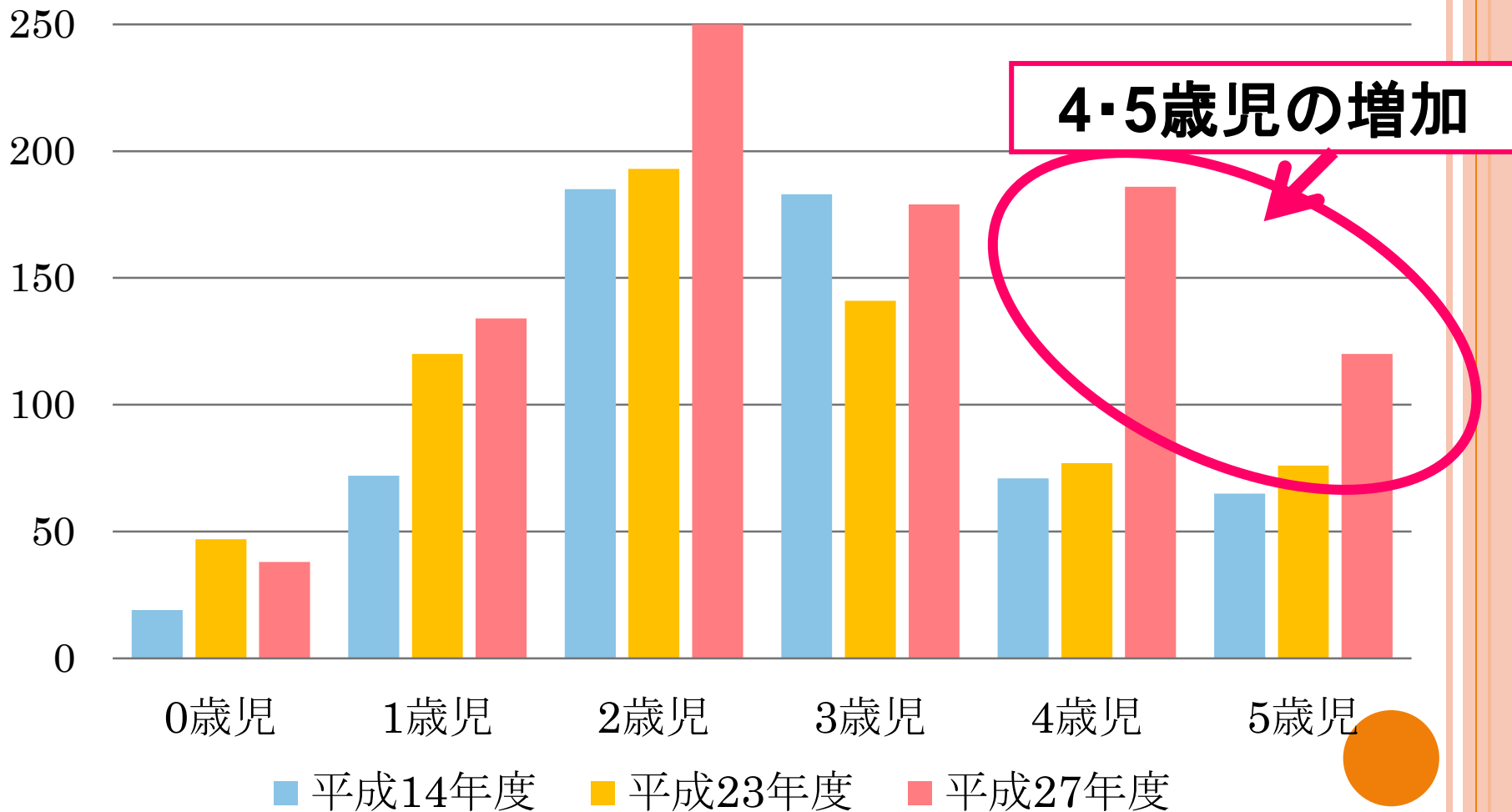
初回相談時年齢別知的レベルの内訳(就学時)

就学時、知的に
正常範囲の児も
低年齢で相談来所
している



乳幼児新規相談 学年別内訳

平成14年度・平成23年度・平成27年度の比較



相談の中で増えている傾向

○障害児保育に関わる相談で...

発達面で遅れがなく、家庭ではあまり困り感がなく生活していたお子さんが、入所(園)してから集団で行動することが難しく、先生が1対1で対応している児。

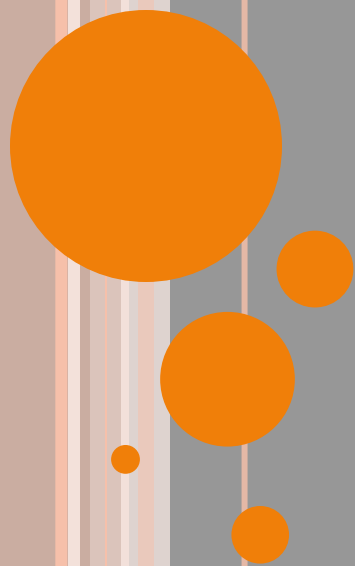
障害児保育の必要性があると、入所後に相談をお受けする例

○幼稚園在籍の5歳児の相談で...

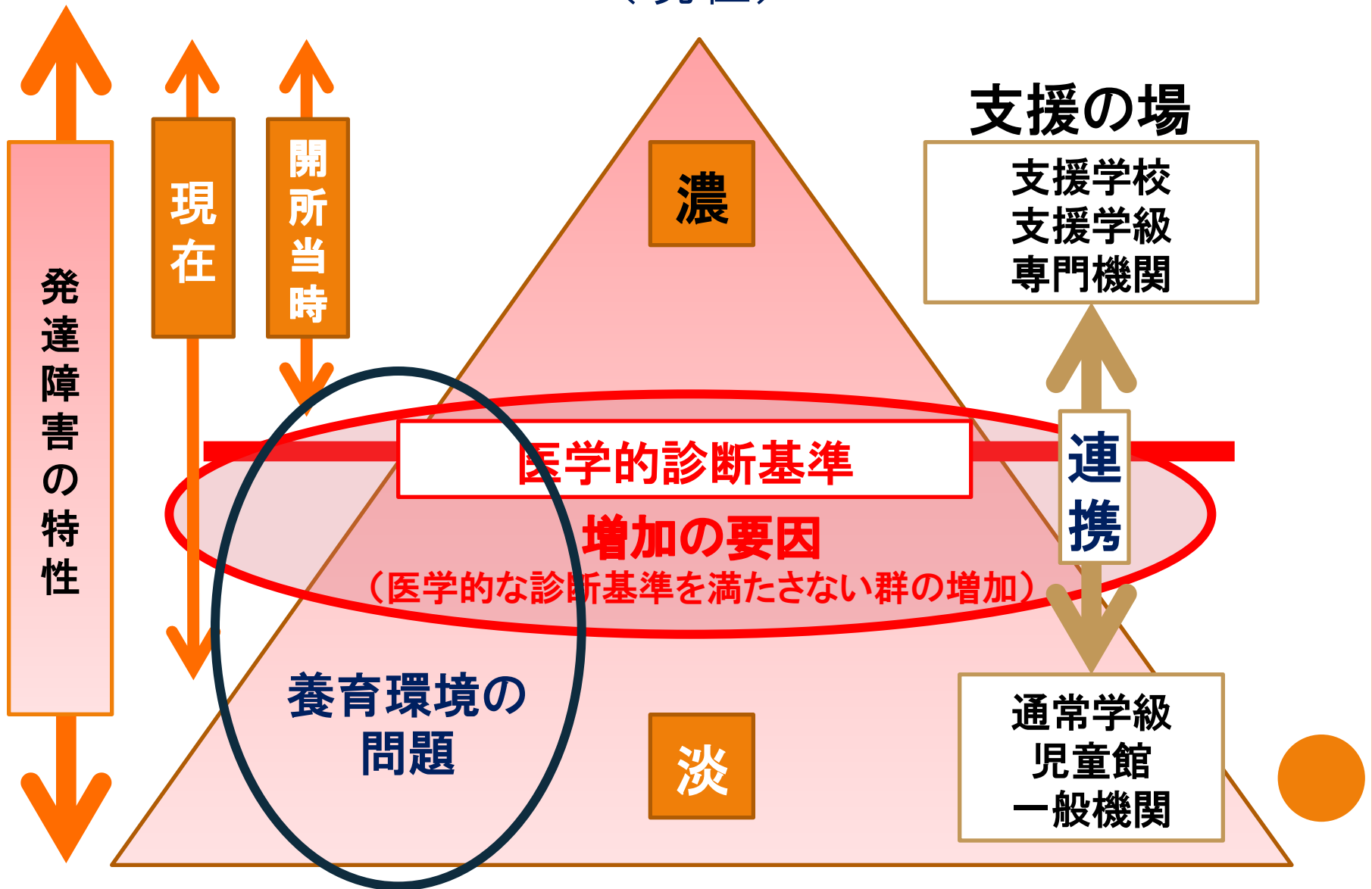
幼稚園では丁寧な対応を継続しているが、「来年通常学級に入学したことを考えると、アーチルでお子さんの配慮事項を確認して学校につなげた方が良いのではないか」と園から勧められ、また保護者が心配をして、相談をお受けする例



3. 課題



発達障害を心配する相談件数の増加 (現在)



近年の乳幼児支援系の相談から見える課題

- 「（比較的薄い）発達特性」を心配し相談来所するケースの増加や養育環境面のフォローが必要な相談ケースも目立つ
- 幼稚園や保育所でも、発達面で“気になる”子供が増加

＜障害部門・子育て部門

それぞれ単独で担うことの限界＞



- 「子育て」の観点から、連携・協働の中で課題を解決していくことの必要性



子育てを支えるネットワーク



アーキル

チームアプローズ
生涯ケア
仲間や先輩との出会いの場を設定

不安を受け止める
共に考える

子ども 家族

不安感を軽減

子育ての喜び・自信に

不安を受け止める
共に考える

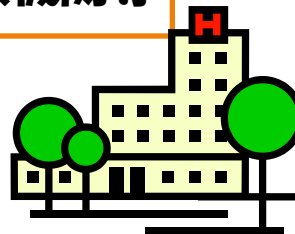
集団の場
(日中活動の場)

不安を受け止める
共に考える

医療機関等

つながる

児童館
幼稚園
保育園(所)
子育て支援C
児童事業所
児童センター等



つながる

不安を受け止める
共に考える

保健福祉センター

総合相談(訪問)
地域のサポーター

つながる

